

# 茶早生品種「山の息吹」の新芽の硬化抑制法

## [研究のねらい]

- ・早生品種「山の息吹」は樹勢が強く、マイルドな渋みが特徴の静岡県奨励品種・戦略品種である。
- ・しかしながら、新芽の硬化が早く、摘採適期を逸しやすいと指摘されている。
- ・そこで、「山の息吹」の新芽の硬化特性を解明するとともに、硬化抑制技術を開発し、「山の息吹」の良質・安定生産技術を確立する。

## [研究の成果]

- ・「山の息吹」の一番茶新芽は「やぶきた」と比較して、茎の木化が急速に進行した(図1)。
- ・一番茶は、出開き度30~40%以下で早期摘採すること(図2)、遮光率80~90%の黒色資材で一週間直接被覆すること(図3)で茎の木化を抑制することができた。
- ・一番茶摘採直後に摘採面から2cm下で深整枝を行うことにより、二番茶芽の芽揃いと荒茶品質を向上することができた。

## 「山の息吹」の栽培体系

### 一番茶

#### 直接被覆

遮光率 80~90%の被覆資材を一週間程度被覆する。

- ・新芽の木化の抑制
- ・荒茶の色沢向上

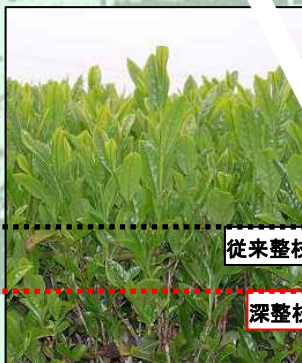


### 一番茶摘採

#### 早期摘採

出開き度 30~40%以下で早期摘採する。

- ・新芽の木化の抑制
- ・高窒素含有生葉の生産
- ・早生品種早期摘採による有利販売



#### 摘採直後の深整枝

摘採面から-2cmの位置で深整枝し、約20日後に深整枝面から1cm上で再整枝する。

- ・二番茶の芽揃いと荒茶品質の向上

### 二番茶

#### 直接被覆

遮光率 80~90%の被覆資材を3~5日間被覆する。(前報『直接被覆による「山の息吹」の荒茶色沢の改善』より)

- ・新芽の木化の抑制
- ・荒茶の色沢向上

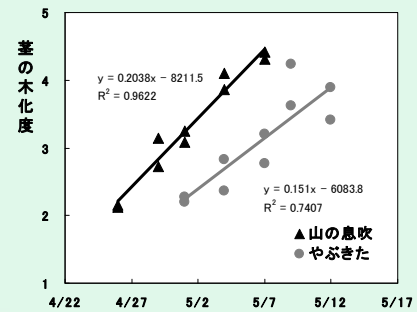


図1 摘採時期の違いが「山の息吹」「やぶきた」一番茶新芽の茎の木化に及ぼす影響

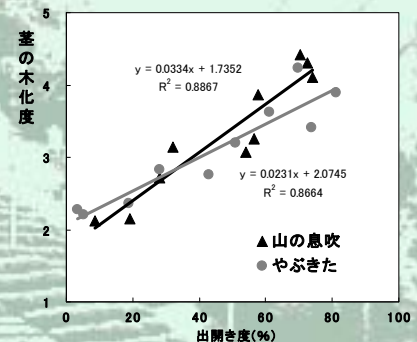


図2 一番茶新芽の出開き度と茎の木化度の関係

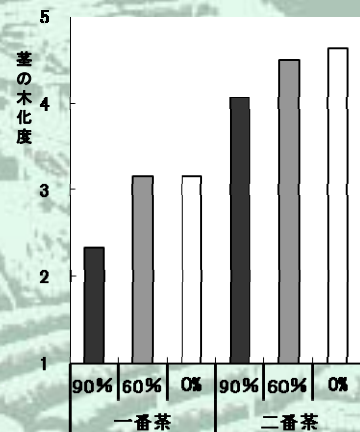


図3 直接被覆(遮光率)が一、二番茶新芽の茎の木化に及ぼす影響